

防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）成果報告書

教育委員会名：久慈市教育委員会

I 取組の概要

1 久慈市立夏井小・中学校の取組の概要

[久慈市立夏井小学校]

- ・山間地における土砂災害の危険性を学習し、学区内の土砂災害等が起こると予想される地域を知り、状況・天候によってどのように避難することが安全であるかを理解する。(防災教育)
- ・久慈市や近隣の町村の復興や産業に関する学習を通じて、自分の生き方について考える取り組みを行う。(復興教育)
- ・夏井町の郷土芸能、伝統行事など、温かい人のつながりがある社会や地域づくりに関わる取り組みを行う。(復興教育)

[久慈市立夏井中学校]

- ・過去の自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて学び、防災・減災について理解する。(防災教育)
- ・危機を回避し、災害や事故に直面した際に自他の体を守り、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身につける。(防災教育)
- ・地域の文化に触れ、郷土を愛し文化を受け継ごうとする心を育成する。(復興教育)
- ・救援活動に従事した人々の働きと苦勞を通して、どんな状況においてもやり抜く強さについて考える。(復興教育)

2 久慈市立夏井小・中学校の具体的な取組

[久慈市立夏井小学校]

- ・久慈市ハザードマップの配付
- ・避難訓練（2回）、ショート避難訓練（8回）
- ・地域と連携した郷土芸能の取組と披露
- ・各家庭において「我が家の防災の約束」の確認
- ・岩手大学井良沢教授による防災学習会
- ・地域と連携したそばづくり
- ・AEDを用いた心肺蘇生法
- ・野田村の被災地見学学習
- ・応急手当訓練
- ・「学校安全危機管理マニュアル」と「学校行事などを関連付けた復興教育副読本『いきる かかわる そなえる』の活用年間計画」の見直し

- ・復興教育副読本を活用した道徳の授業研究会
- ・防災・復興発表会
- ・防災・復興学習実践記録集の作成と家庭配付

[久慈市立夏井中学校]

- ・PTA総会地区集会
- ・生徒地区集会（5地区）
- ・地域医療に携わる講演会
- ・地震・火災・洪水を想定した避難訓練（3回）
- ・被災地見学
- ・郷土芸能の取組
- ・復興教育講演会

II 取組の成果と課題

1 取組の成果

[久慈市立夏井小学校]

- ・本校では、これまでも復興教育副読本「いきる かかわる そなえる」や様々な防災教育教材等を活用して学習をしてきているが、今回復興教育スクールの指定をいただき、被災地である野田村を見学し被災の実態、復興の様子、体験した人々の話など生の事実にもふれた学習をすることができたことは貴重な機会となった。
- ・本校を含む地域は地形的に土砂災害の危険性が高い地域なので、専門家（大学教授）を招き、土砂災害について、その現象やメカニズム、兆候、避難の仕方等を学んだ。実験や実地踏査など子ども達にも分かりやすく、実感を伴って、自分たちの住む地域の災害の危険性、防災の必要性を学ぶことができたことはありがたいことだった。このことは、子ども達が家族と、災害が起きた時の避難の仕方、行動の仕方等を話し合う活動に大きく作用した。
- ・今年度の取り組みを通して子ども達は「命を守ることの大切さ」を感じ「自分で判断して行動できるようになりたい」と考えるようになった。そして、郷土芸能や伝統行事の活動を通して地域への愛着を深め、被災地を思いやる気持ちを持つこと

ができた。

[久慈市立夏井中学校]

- ・数回にわたり地区集会を開催し、災害時の避難方法を確認することは、自分が災害に直面した際に被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身につけることにつながった。
- ・地域医療に携わる講演会を実施したことにより、久慈地区の医療の現状を知ることができ、救援活動に従事した人間の苦労を共有し、どんな困難な状況においてもやり抜く強さについて考えることができた。
- ・地震、火災、洪水等自然災害を想定した避難訓練に真摯な態度で臨むことで、自ら危機を回避し、災害や事故に直面した際に自他の身体を守ることの重要性を確認できた。
- ・地域の方を講師として招聘し、地域に伝わる伝統芸能である「夏井大梵天神楽」に取り組んだことで、夏井地区の歴史に触れ、郷土の文化を受け継ごうとする心を育成することにつながった。
- ・地元企業の方を講師として招聘し、復興教育に関わる講演会を実施したことは、過去の自然災害(東日本大震災)と共存してきた人々の努力や苦労について知る良い機会となり、今後自らが防災、減災に取り組まなければならないという意欲を醸成させることにつながった。
- ・津波、風水害で「警報」等が発令された場合の共通確認事項について、地域を知る方々からの助言を活かして以前のマニュアルを見直したことにより、有事の際の対応がより明確となった。このことは、実際に「警報」「注意報」が発令された時に大いに役立っている。

2 取組の課題

[久慈市立夏井小学校]

- ・復興教育副読本の活用計画や警報等荒天時の対応の見直し、様々な行事や取組への関連付けなど、日常の教育を考えたり、意識したりすることができてきたので、さらに充実に努めたい。
- ・家庭や地域と連携した取り組みをさらに工夫し、学校と地域が協働して復興・防災教育を進めていきたい。

[久慈市立夏井中学校]

- ・実際の自然災害等に即応した避難訓練を工夫して実施する。
- ・特に、本校の立地を考えた際に必要となる水害

を想定した避難訓練の充実を図る。

- ・地域の伝統芸能「夏井大梵天神楽」への継続した取組を行う。
- ・災害時の避難の仕方についての生徒への指導徹底を図る。
- ・「警報」「注意報」発令時の教職員、生徒、保護者の動きのさらなる周知及び徹底を図る。